

# インマヌエル中目黒キリスト教会

## 2014年6月15日聖日礼拝

---

使徒の働き連講③②

「コスモポリタンの教会」

使徒の働き11章19-26節

竿代照夫牧師



# 聖書朗読

## 新約聖書

### 使徒の働き11章 19-26節

聖書第三版

(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp230~/ 第三版の聖書はp251~

19 さて、ステパノのことから起こった迫害によって散らされた人々は、フェニキヤ、キプロス、アンテオケまでも進んで行ったが、ユダヤ人以外の者にはだれにも、みことばを語らなかつた。

20 ところが、その中にキプロス人とクレネ人が幾人かいて、アンテオケに来てからはギリシヤ人にも語りかけ、主イエスのことを宣べ伝えた。

- 21 そして、主の御手が彼らとともにあったので、大ぜいの人が信じて主に立ち返った。
- 22 この知らせが、エルサレムにある教会に聞こえたので、彼らはバルナバをアンテオケに派遣した。
- 23 彼はそこに到着したとき、神の恵みを見て喜び、みなが心を堅く保って、常に主にとどまっているようにと励ました。

- 24 彼はりっぱな人物で、聖霊と信仰に満ちている人であった。こうして、大ぜいの人々が主に導かれた。
- 25 バルナバはサウロを捜しにタルソへ行き、
- 26 彼に会って、アンテオケに連れて来た。そして、まる一年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた。弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。

# 説教

使徒の働き連講③②

「コスモポリタンの教会」

使徒の働き11章19-26節

竿代照夫 牧師



## 主テキスト

「主の御手が彼らとともにあったので、  
大ぜいの人が信じて主に立ち返った。」

(使徒11:21)

A. 散らされた信徒たちの伝道(19-21節)  
・タンポポのように(イラスト①)





・フェニキヤ、キプロス、アンテオケでの伝道  
(地図①)

キリキヤ



ユダヤ

・メガ国際都市アンテオケ(地図②)



・「救われてしまった」アンテオケ人（イラスト②）

〈おどろくほどかんたん〉

いきなりイエス様を信じen

イエス様を  
信じる

ユダヤ教に  
改宗

〈はじめのステップ〉

ギリシヤ人



- ・主の御手が共にあった

## B. バルナバの訪問と喜び(22-24節)

- ・エルサレム教会の懸念と使者の派遣

- ・広い心のバルナバによる励まし

## C. 教会の確立と進展(25-26節)

- サウロをリクルート
- 「キリスト屋」との呼び名
- コスモポリタンの(広い心の)教会

おわりに

お互いを先ず受け入れよう